



着物と車いすをつなぐ WA…WA と WA

2024年4月21日に車いすユーザーの着物ファッションショーを開催した「車いすと着物 WA と WA」の代表、福祉車いす着付け師の宇治田いさ子さんに活動の経緯やこれからのことをおうかがいしました。

着物との出会い

宇治田さんは大学の被服科で和裁と洋裁を習っていました。自装も習い、一人での着付けができるようになってきたといいます。宇治田さんにとっては着物の「和」の雰囲気や精神的に和むという感覚をずっと持っていました。

福祉車いす着付け師を目指す

宇治田さんは2018年3月には障がい者施設で開催されたファッションショーに参加し、男性には紋付き袴、女性には訪問着の着付けに初めて取り組みました。

宇治田さんは2019年に開かれた「人権フェスタ」に合わせて「WAとWA」を立ち上げました。WAは、車いすの「輪」、着物の「和」をイメージしています。さらに和歌山のWA、和みのWAの意味も込められています。

WAとWAの立ち上げ

宇治田さんは2019年に開かれた「人権フェスタ」に合わせて「WAとWA」を立ち上げました。WAは、車いすの「輪」、着物の「和」をイメージしています。さらに和歌山のWA、和みのWAの意味も込められています。

持つ和を多くの方に感じてもらうことができ、宇治田さんが持ち続けていた「和」の世界に向けて大きく前進しました。



車いすでの着付けの様子



パラコレの舞台裏から

宇治田さんは2019年に開かれた「人権フェスタ」に合わせて「WAとWA」を立ち上げました。WAは、車いすの「輪」、着物の「和」をイメージしています。さらに和歌山のWA、和みのWAの意味も込められています。

宇治田さんは2019年に開かれた「人権フェスタ」に合わせて「WAとWA」を立ち上げました。WAは、車いすの「輪」、着物の「和」をイメージしています。さらに和歌山のWA、和みのWAの意味も込められています。

宇治田さんは2019年に開かれた「人権フェスタ」に合わせて「WAとWA」を立ち上げました。WAは、車いすの「輪」、着物の「和」をイメージしています。さらに和歌山のWA、和みのWAの意味も込められています。

宇治田さんは2019年に開かれた「人権フェスタ」に合わせて「WAとWA」を立ち上げました。WAは、車いすの「輪」、着物の「和」をイメージしています。さらに和歌山のWA、和みのWAの意味も込められています。

宇治田さんは2019年に開かれた「人権フェスタ」に合わせて「WAとWA」を立ち上げました。WAは、車いすの「輪」、着物の「和」をイメージしています。さらに和歌山のWA、和みのWAの意味も込められています。

宇治田さんは2019年に開かれた「人権フェスタ」に合わせて「WAとWA」を立ち上げました。WAは、車いすの「輪」、着物の「和」をイメージしています。さらに和歌山のWA、和みのWAの意味も込められています。

宇治田さんは2019年に開かれた「人権フェスタ」に合わせて「WAとWA」を立ち上げました。WAは、車いすの「輪」、着物の「和」をイメージしています。さらに和歌山のWA、和みのWAの意味も込められています。



WA と WA

URL <https://www.ujita-isako.com/>
Instagram は右の QR コードから



2024年度 わかやま SDGs パートナシップ基金 活動助成先を公募します

みんなの力で SDGs 達成を！

わかやま NPO センターが 2021 年度から運営している「わかやま SDGs パートナシップ基金」では、県民のみならずからのご寄付を原資に、国連 SDGs（持続可能な開発のための目標）の達成に向けて取り組みをすすめる和歌山県内の NPO・ボランティア団体を応援します。

【対象団体】

- 以下の条件をすべて満たす団体が対象です。
- 和歌山県内に拠点を置く NPO・ボランティア団体（法人格の有無は問いません）
- 一般社団法人の場合は非営利徹底型に限り、
- 応募時点で、活動開始から概ね 6 カ月以上経過していること

【対象活動】

和歌山県内で実施される、子ども食堂や地域食堂など「食を通じた地域福祉」、地域住民が集える「みんなの図書室」「みんなの集会所」など「地域コミュニティの再生」につながる活動を対象とします。

【助成金額・団体】

1 団体 3 万円を 10 団体前後に助成します。他の助成金事業等との重複も構いません（もう一方の事業が認めている場合に限り）。なお、集まった寄附金額に応じて団体数は増える可能性があります。

【助成金の使途】

市民のみならずからのご寄附が助成金の原資であることから、活動に直接必要な費用に充当されることを原則とします。内訳は問いません。

【助成申請に必要なもの】

- ① 申請用紙 <https://wnc.jp/works/sdgsfund> から Word ファイルで入手できます。
- ② 添付書類
- ・NPO 法人の場合…原則としてありませんが、定款と直近事業年度の事業報告書・活動計算書が内閣府 NPO 法人ポータルサイト (<https://www.npo-homepage.go.jp/npoportal/>) に掲載されていない場合は

- 添付ください。初年度が終了していない場合は、初年度の事業計画書と活動予算書を添付ください。
- ・任意団体の場合…会則もしくは規約と直近事業年度の事業報告書・決算書。初年度が終了していない場合は、初年度の事業計画書と予算書を添付ください。
- ・一般社団法人の場合…定款と直近事業年度の事業報告書・決算書。初年度が終了していない場合は、初年度の事業計画書と予算書を添付ください。

【申請方法】

わかやま NPO センターまで FAX もしくは電子メールのいずれかでお送りください（郵送は受け付けません）。電子メールでの応募の場合は、受領確認メールをお送りします。3月6日17時を過ぎても受領確認メールがない場合は、迷惑メール等に誤判定されている可能性がありますので、電話でお問い合わせください。

【申請しめきり】 2025年3月4日（火）17時（必着）

【結果の通知・入金について】

わかやま NPO センター内部に設置する審査委員会で審査します（応募内容によっては追加の質問もしくはヒアリングをさせていただくことがあります）。3月中旬を目処に助成先を決定、採否を通知します。採択団体に対しては3月下旬を目処に助成金を団体指定口座（団体名義の口座に限り）に振り込みます。

【事業報告について】

助成が採択された団体には、2025年9月末までに写真等を交えた事業報告・決算報告をご提出いただきます。事業報告は寄附をいただいたみなさまにお知らせするほか、ウェブサイト等で公開します。事業報告・決算報告の書式は特に定めません。なお、決算報告には領収書のコピーの添付をお願いします。

【実施主体・応募先】

認定 NPO 法人わかやま NPO センター（和歌山県 NPO サポートセンター指定管理者）
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12
TEL 073-424-2223（火曜～金曜 不在の場合は和歌山県 NPO サポートセンターに転送されます）
FAX 073-435-5425 E-mail info@wnc.jp

【ご寄附も継続して募集しています】

この助成はみなさまからのご寄附を原資に実施しております。寄附額が増えることで支援先も増えますので是非ご協力ください。本事業へのご寄附は、確定申告により、所得税等の税額控除が受けられます。クレジットカードからのご寄附も可能。ご寄附についての詳細はウェブサイト (<https://wnc.jp/donations/>) から。

和歌山市 NPO・ボランティア推進協議会だより

まちなか百姓養成塾

日程	3月19日（木） 18:30～20:00
場所	和歌山市地域フロンティアセンター 会議室（フォルテ ワジマ6階）
内容	キュウリ、トマト など春野菜の栽培 について学びます
参加費	500円（資料代）
定員	20名（申込必要）
主催	わかやまイネ！ プロジェクトま ちなか百姓養成 塾チーム waiprojimu@gmail.com
備考	できるだけ事前に 申し込んでくださ い。